浦幌のウチダザリガニ駆除(2016年)

円子紳一1)

Shinichi Maruko, 2017. The extermination of *Pacifastacus luniusculus trowbridgii* in Urahoro, eastern Hokkaido, 2016.

Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 17: 9-11.

はじめに

浦幌町でのウチダザリガニ駆除は、2015年から「浦幌の自然を楽しむ会」が取り組んでいる。

2015年は環境省北海道地方環境事務所から防除に係る認定を受け、調査区域である浦幌川(第1浦幌橋 ~万統橋)、支流のオベトン川(浦幌川合流点~国道 38号)とその上流で111匹が駆除された。詳しくは本紀要第16号「浦幌で初めてのウチダザリガニ駆除」(円子2016)を参照されたい。

2016年7月30日の「ウチダザリガニバスターズ」では小学生9人と保護者4人の参加を得て、北海道ウチダザリガニ防除ネットワークの高橋克巳代表からウチダザリガニの説明を受けオベトン川で捕獲体験、試食を行った。9月8日には15年に続いて酪農学園大学野生動物保全技術実習を同川で行い捕獲と計測体験が行なわれた。

調査区域の拡大と分布の確認

2015年の駆除で調査区域(上記参照)全域に生息が確認されたことから、浦幌町全域を調査区域として変更申請をして認定を受けた。

あわせて、北海道内水面漁業調整規則に基づく内水 面採捕の許可を、浦幌町全域として得た。

2016年の調査では、地域住民から寄せられた情報をもとに、浦幌川と常室川の合流点でも生息を確認した。オベトン川では昨年より上流の山蔭橋までの生息が確認された。

調查 • 駆除結果

浦幌川は5月融雪水、6月長雨、8月は4個の台風

1) 浦幌の自然を楽しむ会 〒 089-5634 北海道十勝郡浦幌町字帯富

襲来などにより増水状態が続き、たも網で7月17日、 カニカゴで10月18日、26日の3回しか駆除出来 なかった。

オベトン川 (浦幌川支流) では、7月30日~11月2日までの間に 13回駆除した。たも網で 12回、カニカゴ併用で1回である。駆除の内訳は表1の通り。カニカゴの目合いが 1.5cmであるのに対して、たも

カニカコの自合いか 1.5cmであるのに対して、たも 網の網目は 3mmと狭小なことから、当年生まれと思わ れる小型のサイズが多く捕獲された。結果として表 2 の通り 15 年に比べて雌雄とも全長・体重で小さな数 値となった。

7月17日に行った浦幌川と常室川の合流地点では 10匹を捕獲。上流域への分布拡大が確認された。翌 18日に浦幌川の第四浦幌橋(留真)〜留真川の留真 橋間で、たも網による捕獲を試みたが生息は確認でき なかった。

今後の調査・駆除

2016年の駆除は、浦幌川の増水によりオベトン川に集中したが、同川流域には以前からニホンザリガニの生息が知られて、餌の略奪などウチダザリガニとの競合が心配される。11月19日に川湯エコミュージアムセンターで開かれた「外来ざりがにサミットin屈斜路」で、捕獲圧が高い場所では生息数の減少が見られるとの報告もあり、今後も集中した捕獲が必要と考える。

第1浦幌橋より上流の常室地区で生息を確認したが、どこまで遡上しているのか、支流ではどうなっているのか。浦幌川の万統橋(万年と統太の境界)より下流や接続河川、沼ではどうなっているのか。昆布刈石より東の河川はどんな状況か。心配が尽きないが少しずつ調査したいと考えている。

表 1 2016年のウチダザリガニ駆除内訳

	_					全 長	ŧ mm	体 重	Î g	
回数	月日	河川名	区 域	性別	頭数	最大	最少	最大	最少	備考
				3	3	103. 95	54. 26	52. 26	3. 65	
1	7月17日	浦幌川	常室川との合流	우	7	102.52	48.87	32. 94	3.91	
				計	10					
				3	5	116. 26		82.86		ウチダザリガニ
2	7月30日	オベトン川	茂帯富川との合流	우	23	82.86		24.00		バスターズ
2	17,30 H		点から両上流	不明						計測は♂♀各1
				計	37					匹
3	8月 4日	同上	元富橋~山蔭橋	不明						
				計	1	95, 44	00.07	00.00	0.77	
				₹ 7	9 22		28. 07 26. 20	33. 80 43. 59	0. 77 0. 56	歌曲兴国上兴乱
4	9月 8日	同上	茂帯富川との合流 点から両上流	+ 不明		14. 21	12. 93	43. 59 0. 06	0.56	酪農学園大学動 物保全技術実習
				計	33		12.93	0.00		初水土及附天日
				3	5		54. 43	75, 38	4.90	
				<u>ک</u>	8	119. 96	32. 71	68. 44	0.90	
5	9月17日	同上	同上	不明			11. 96	0.08	0.06	
				計	16		11.00	0.00	0.00	
				3	9		77. 79	70.69	16. 42	
6	9月20日	同上	同上	우	7	93. 34	83. 14	25.30	17. 28	
				計	16					
				8	6		83. 32	60.73	19.71	
7	9月27日	同上	同上	우	3	100.83	83. 46	29. 49	17. 93	
				計	9					
				3	1	100.42		33. 67		
8	10月 6日	同上	同上	우	6	94. 65	48. 12	26. 24	3. 24	
		, .	, .—	不明		34. 12	32. 55	1.80	0.85	
				計る	9	98. 28	36. 91	40. 08	1.02	
				수 8,	7		31. 04	3. 30	0.81	
9	10月10日	同上	同上	+ 不明			16. 43	0. 12	0.01	
				計	18		10.45	0.12	0.00	
1 0	10月18日	浦幌川	森永落差工	3	2		89. 18	44. 02	23. 77	
				٠ ٩	1	95. 10		32. 93		抱卵
			塩村落差工	3	1	107. 99		48.68		1
		オベトン川	茂帯富川との合流 点から両上流	3	6	100. 14	39. 33	32. 45	1.49	
				우	7	66. 05	35. 43	9.02	1.04	
				不明		28. 09	15. 26	0.49	0.07	
				計	24					
		浦幌川	塩村落差工	3	1	102.16		41.00		
1 1	10月26日	オベトン川	帯富橋~北栄橋	3	1	53. 14		3.82		
^ ^	/-		1971/5/1104	不明		22.71	18. 58	0. 25	0.15	
\vdash			本世帯田しゃりま	計	8	E4 00	00.04	4 44	4 4 4	
1 2	10月29日	オベトン川	茂帯富川との合流 点から両上流	우 計	2 2	54. 60	33. 94	4. 41	1.14	
			2014 12 14 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	計る	6	53. 17	32.86	6. 11	1.28	
1 3	10月31日	同上	同上	수 8	8		33. 30	15. 92	0.95	
	10/101 H	157	1017	計	14	10.99	55.50	10.34	0.90	
			11 W 15 24 Y	우 우	1	44. 90		2.40		
1 4	11月 2日	同上	北栄橋落差工の上	不明			18. 37	0. 15	0.13	
			流	計	3					
					60	116. 26	28. 07	75. 38	0.77	
合計			우	103	119.96	14. 21	68. 44	0.56		
ц п				不明 計	37	34. 12	11.96	1.80	0.06	
					200					

体重 全長 mm g 雌雄 年 個体数 最大 最少 最大 最少 2015 37 121.00 60.00 97.00 7.00 3 2016 116.26 28.07 75.38 0.77 60 35 129.00 58.00 76.00 8.00 2015 2 2016 80 119.96 14.21 68.44 0.56 2 112.00 104.00 2015 60.00 56.00 不明 2016 27 34. 12 11.96 0.06 1.80 58,00 97.00 2015 74 129, 00 7.00 総体 119.96 11.96 75.38 0.06 2016 167

表 2 2015年と2016年の全長と体重の比較

数値は全長・体重の両方を測定した個体による。 2016年は小数点2桁表示のデジタルノギス、秤を使用した。

これからのウチダザリガニとの付き合い

ウチダザリガニは人間の都合で日本に持ち込まれ、 北海道では各地に生息域を拡大し、さまざまなあつれ きを生じている。今や根絶は難しい状況だが、いかに 生息密度を低下させ在来生物への影響を軽減させるか が大切になってくる。

また、特定外来生物や生物多様性については、新聞 報道されているが一般的にはまだまだ認知度が低いと 思われる。外来生物の問題点や生物の命の大切さなど を通して自然界の生物多様性を伝えることも必要に なっている。「ウチダザリガニバスターズ」など子ど もたちへの啓もう活動も引き続き取り組む課題だ。

そんな中でやみくもに駆除だけを追い続けるのは、 現状では徒労感が増して活動の停滞につながりかねない。時には楽しみながらの試食、新しい捕獲方法や利 用方法を考えることで息の長い活動に結び付けたいと 考えている。

おわりに

駆除活動の中心となっている「浦幌の自然を楽しむ会」のみなさん、町立博物館の持田誠学芸員、北海道ウチダザリガニ防除ネットワークの高橋克巳代表、齊藤さゆりさん、「ウチダザリガニバスターズ」に参加いただいたみなさん、野生動物保全技術実習を行った

酪農学園大学の佐藤喜和教授や学生のみなさんに心から感謝申し上げる。

なお、本調査・駆除経費の多くは、浦幌町の「笑顔輝く地域づくり支援事業」の補助金を得て行われたものである。

参考文献

山田昌義・鏡坦・丸山まさみ・川井唯史. 2015. 十勝 における外来種ウチダザリガニの現状と対策(総説). 帯広百年記念館紀要. 33: 17-31.

円子紳一. 2016. 浦幌で初めてのウチダザリガニ駆除. 浦幌町立博物館紀要. 16: 9-13.